



水辺に親しめるように配慮したデッキ



古賀メロディが流れるスピーカーを設置



筑後川の昇開橋をイメージした橋

DATA・BOARD 33

- ①福岡県大川市大字榎津ほか
- ②散歩道延長：約2,500m、水路延長：1,840m
- ③西鉄大牟田線柳川駅からバスで20分、九州縦貫自動車道八女ICから車で約30分、九州横断自動車道長崎大分線佐賀大和ICから車で約35分
- ④筑後川昇開橋展望公園、水天宮(六地藏)、大川公園、風浪宮、古賀政男記念館ほか
- ⑤小学校の野外学習



33 メロディロード



大川市には昔から水路が網の目状に発達していた。近年、浸水解消を目的とした都市下水路事業を行うと同時に、付随して生じる空地を水循環再生モデル事業として、水辺の散策路などを主体にした整備を行ったものが、「メロディロード」である。

また、大川市が作曲家古賀政男の出身地であることから、地域の生んだ偉大な作曲家の音楽を取り入れたまちづくりを進めており、沿道に設置されたスピーカーから古賀メロディも流されている。

沿道は水辺を活かした景観づくりが行われ、橋や水辺に降りられる階段などを設けるとともに、四阿やベンチを設置して訪れた人々が憩いの場としても利用できるように考慮されている。

また、大川市の基幹産業のひとつが木工産業であることから、柵や橋、親水デッキなどに木を多用したり、橋の形態を筑後川の昇開橋にするなど、地域の歴史性も配慮されている。

整備後は、古賀メロディが流れる市民の散策、憩いの場として親しまれており、小学校の野外学習などにも活用されている。